

(再評価)

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道158号 中部縦貫自動車道 (一般国道158号 大野油坂道路(和泉・油坂区間))
事業主体	近畿地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている	(一体評価 中部縦貫自動車道) 全事業：費用便益比(B/C)=1.1(経済的純現在価値(B-C)=1122億円、経済的内部収益率(EIRR)=4.6%) 残事業：費用便益比(B/C)=6.3(経済的純現在価値(B-C)=3384億円、経済的内部収益率(EIRR)=60.2%) (大野油坂道路(和泉・油坂区間)) 全事業：費用便益比(B/C)=0.9(経済的純現在価値(B-C)=-141億円、経済的内部収益率(EIRR)=3.5%) 残事業：費用便益比(B/C)=2.4(経済的純現在価値(B-C)=811億円、経済的内部収益率(EIRR)=12.5%)

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力	円滑なモビリティの確保	<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減率	区間a(費用便益分析対象区間)について 渋滞損失時間(現況):261739万人・時間/年 渋滞損失削減時間:223万人・時間/年(261739万人・時間/年⇒261515万人・時間/年) 区間b(当該区間/並行区間)について:一般国道158号 並行区間等(当該区間)の渋滞損失時間:111万人・時間/年 並行区間等(当該区間)の渋滞損失削減率:10割削減
		<input type="checkbox"/> 並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる	大野市市営バス(前坂線)
		<input type="checkbox"/> 新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる	
		<input type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	物流効率化の支援	<input type="checkbox"/> 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港へのアクセス向上が見込まれる  <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる	大野市(さといも)、主な出荷先 福井市(福井市中央卸売市場)、岐阜市(岐阜市中央卸売市場)

1. 活力	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		<input type="checkbox"/> 三大都市圏の環状道路を形成する	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
	国土・地域ネットワークの構築	■ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	長野県松本市～福井県福井市間（中部縦貫自動車道の一部を構成）
		■ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	大野市～郡上市
		■ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	大野市～郡上市（所要時間：81分→75分）
	個性ある地域の形成	■ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	越前美濃街道広域観光交流の支援、大野市和泉地区化石保全活用計画、越前おおの産業ブランド向上戦略
■ IC等からアクセス向上する主要な観光地が存在する		道の駅「越前おおの荒島の郷」（年間観光客入込数：約67万人/年 R3年） 大野まちなか観光（年間観光客入込数：約36万人/年 R3年）	
<input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である			
2. 暮らし	安全で安心できるくらしの確保	<input type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	

3. 安全	安全な生活環境の確保	<input type="checkbox"/> 並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少により当該区間の安全性の向上が期待できる	
	災害への備え	<input checked="" type="checkbox"/> 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	道路防災情報Webマップ（緊急輸送道路）
		<input checked="" type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強えられる区間の代替路線を形成する	国道158号（大野市貝皿～大野市東市布区間）
		<input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間の代替路線を形成する	事前通行規制区間 国道158号 大野市下唯野～大野市東市布区間
4. 環境	地球環境の保全	<input checked="" type="checkbox"/> 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	CO2排出削減量：2497.61t-CO2/年
	生活環境の改善・保全	<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのNO2排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：一般国道158号 排出削減量：53.98t/年、排出削減率：10割削減 （バイパス事業の場合）バイパス等についてNOx排出増加量：51.21t/年
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのSPM排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：一般国道158号 排出削減量：3.1t/年、排出削減率：10割削減 （バイパス事業の場合）バイパス等についてSPM排出増加量：2.89t/年
		<input type="checkbox"/> 並行区間等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	<input checked="" type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	第六次大野市総合計画（中部縦貫自動車道の整備促進） 大野市都市マスタープラン（中部縦貫自動車道の整備促進） 福井県長期ビジョン（中部縦貫自動車道の整備促進） 福井ふるさと元氣宣言（中部縦貫自動車道の整備促進） 道路の中期計画（近畿地方版）（高規格道路の整備）
	その他	<input type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される	

## 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・ その他の別
一般国道158号	中部縦貫 自動車道	L = 72.8km	高規格B	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
12,200	2車線	近畿地方整備局

## ① 費用

	事業費	維持管理費	更新費	合計
基準年	令和5年度			
単純合計	4,577億円	1,343億円	466億円	6,386億円
うち残事業分	502億円	407億円	26億円	935億円
基準年における 現在価値 (C)	7,231億円	734億円	128億円	8,092億円
うち残事業分	473億円	165億円	3.5億円	641億円

## ② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和5年度			
供用年	平成6年度、平成12年度、平成19年度、平成21年度、平成25年度、 平成27年度、平成30年度、令和5年度、令和6年度、令和8年度			
単年便益 (初年便益)	6.5億円	0.42億円	0.10億円	7.1億円
基準年における 現在価値 (B)	8,562億円	546億円	106億円	9,214億円
うち残事業分	3,741億円	249億円	36億円	4,026億円

注) 「供用年」は、便益算定上の仮定の供用年である。

### ③ 結果

費用便益比（事業全体）	1.1
経済的純現在価値（事業全体）	1,122億円
経済的内部収益率（事業全体）	4.6%
費用便益比（残事業）	6.3
経済的純現在価値（残事業）	3,384億円
経済的内部収益率（残事業）	60.2%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

### ④ 感度分析

#### 【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	12,200台/日	±10%	1.02~1.3
事業費	4,577億円	±10%	1.1~1.1
事業期間	45年	±20%	1.1~1.2

#### 【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	12,200台/日	±10%	5.6~6.9
事業費	502億円	±10%	5.8~6.8
事業期間	2年	±20%	6.2~6.5

# 交通状況の変化

様式-3①

## 事業名：中部縦貫自動車道（事業全体）

（推計時点 令和22年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 (72.3km)	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	0	12,200	
	走行時間 <sup>※2</sup>	[分]	0	80	
	走行時間費用 <sup>※3</sup>	[億円/年]	0.00	221.54	
②主な周辺道路 <sup>※4</sup>	一般国道416号 (21.2km)	交通量	[台/日]	7,300	5,300
		走行時間	[分]	51	44
		走行時間費用	[億円/年]	66.16	41.01
	一般国道158号 (92.7km)	交通量	[台/日]	6,400	4,100
		走行時間	[分]	180	154
		走行時間費用	[億円/年]	221.84	123.69
	一般国道157号 (11.2km)	交通量	[台/日]	9,200	9,300
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	26.84	28.08
	(主) 勝山丸岡線 (9.2km)	交通量	[台/日]	6,200	3,200
		走行時間	[分]	23	18
		走行時間費用	[億円/年]	25.71	9.42
	(県) 五条方松原出勝山線 (6.6km)	交通量	[台/日]	200	100
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	0.41	0.23
③その他道路合計 (30,155.6km)	走行時間費用	[億円/年]	128,299.29	127,906.95	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：30,368.8km	走行時間短縮便益	[億円/年]	128,640.24	128,330.92	309.32

※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



## 交通状況の変化

様式-3①

### 事業名：中部縦貫自動車道（残事業）

（推計時点 令和22年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 【未供用区間】 (25.0km)	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	0	10,600	
	走行時間 <sup>※2</sup>	[分]	0	29	
	走行時間費用 <sup>※3</sup>	[億円/年]	0.00	74.80	
①新設・改築道路 【供用区間】 (47.3km)	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	7,500	13,000	
	走行時間 <sup>※2</sup>	[分]	44	50	
	走行時間費用 <sup>※3</sup>	[億円/年]	68.63	146.74	
②主な周辺道路 <sup>※4</sup>	一般国道416号 (21.2km)	交通量	[台/日]	5,100	5,300
		走行時間	[分]	43	44
		走行時間費用	[億円/年]	39.14	41.01
	一般国道158号 (92.7km)	交通量	[台/日]	5,500	4,100
		走行時間	[分]	174	154
		走行時間費用	[億円/年]	185.07	123.69
	一般国道157号 (11.2km)	交通量	[台/日]	8,600	9,300
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	23.91	28.08
	(主) 勝山丸岡線 (9.2km)	交通量	[台/日]	3,000	3,200
		走行時間	[分]	18	18
		走行時間費用	[億円/年]	8.79	9.42
	(県) 五条方松原出勝山線 (6.6km)	交通量	[台/日]	100	100
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	0.25	0.23
③その他道路合計 (30,155.6km)	走行時間費用	[億円/年]	128,187.19	127,906.95	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：30,368.8km	走行時間短縮便益	[億円/年]	128,512.99	128,330.92	182.06

※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。



(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること)



# 費用便益分析の条件

事業名：中部縦貫自動車道

(2)

項目		チェック欄
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局)	<input checked="" type="checkbox"/>
	その他	<input type="checkbox"/>
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間
	社会的割引率	4%
	基準年次	令和5年
交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (令和22年)
	複数時点での推計	<input type="checkbox"/>
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
	整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H27全国道路・街路交通情勢調査)
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
	その他( )	<input type="checkbox"/>
開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
	有	<input type="checkbox"/>
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ( )台トリップ/日 考慮した理由を記載
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>
	簡易手法	<input type="checkbox"/>
	簡易手法の採択理由	小規模事業である <input type="checkbox"/> 山間部海岸部で併行道路が少ない <input type="checkbox"/> その他( )
	簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)	
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 採用理由を記載	<input type="checkbox"/>
	最終配分の速度	<input checked="" type="checkbox"/>
	採用理由を記載	分割回毎の極端な速度差が生じないBPR関数の適用に併せて、最終速度を採用。
	その他( )	<input type="checkbox"/>

交通流推計

(3)

		項目	チェック欄	
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
			採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	( ) %
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載	( ) 日
	とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載		<input type="checkbox"/>	
	冬期交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数 採用した冬期日数の考え方を記載	( ) 日
	冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載			
	交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
その他 ( )		<input type="checkbox"/>		
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走 行経費減少・交通 事故減少以外の便 益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)	<input type="checkbox"/>		
その他				





## 費用の現在価値算定表(残事業)

維持管理費の単純価値の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 一般国道158号 中部縦貫自動車道

単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
0.35	25.0	8.82

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)		更新費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
部分供用開始	R 6	0.9615	101.8	237.27	228.14	2.85	2.74		
部分1年目	R 7	0.9246	101.8	264.96	244.99	2.85	2.63		
供用開始年次	R 8	0.8890	101.8			8.02	7.13		
1年目	R 9	0.8548	101.8			8.02	6.85		
2年目	R 10	0.8219	101.8			8.02	6.59		
3年目	R 11	0.7903	101.8			8.02	6.34		
4年目	R 12	0.7599	101.8			8.02	6.09		
5年目	R 13	0.7307	101.8			8.02	5.86		
6年目	R 14	0.7026	101.8			8.02	5.63		
7年目	R 15	0.6756	101.8			8.02	5.42		
8年目	R 16	0.6496	101.8			8.02	5.21		
9年目	R 17	0.6246	101.8			8.02	5.01		
10年目	R 18	0.6006	101.8			8.02	4.82		
11年目	R 19	0.5775	101.8			8.02	4.63		
12年目	R 20	0.5553	101.8			8.02	4.45		
13年目	R 21	0.5339	101.8			8.02	4.28		
14年目	R 22	0.5134	101.8			8.02	4.12		
15年目	R 23	0.4936	101.8			8.02	3.96		
16年目	R 24	0.4746	101.8			8.02	3.81		
17年目	R 25	0.4564	101.8			8.02	3.66		
18年目	R 26	0.4388	101.8			8.02	3.52		
19年目	R 27	0.4220	101.8			8.02	3.38		
20年目	R 28	0.4057	101.8			8.02	3.25		
21年目	R 29	0.3901	101.8			8.02	3.13		
22年目	R 30	0.3751	101.8			8.02	3.01		
23年目	R 31	0.3607	101.8			8.02	2.89		
24年目	R 32	0.3468	101.8			8.02	2.78		
25年目	R 33	0.3335	101.8			8.02	2.67		
26年目	R 34	0.3207	101.8			8.02	2.57		
27年目	R 35	0.3083	101.8			8.02	2.47		
28年目	R 36	0.2965	101.8			8.02	2.38		
29年目	R 37	0.2851	101.8			8.02	2.29		
30年目	R 38	0.2741	101.8			8.02	2.20		
31年目	R 39	0.2636	101.8			8.02	2.11		
32年目	R 40	0.2534	101.8			8.02	2.03		
33年目	R 41	0.2437	101.8			8.02	1.95		
34年目	R 42	0.2343	101.8			8.02	1.88		
35年目	R 43	0.2253	101.8			8.02	1.81		
36年目	R 44	0.2166	101.8			8.02	1.74		
37年目	R 45	0.2083	101.8			8.02	1.67		
38年目	R 46	0.2003	101.8			8.02	1.61		
39年目	R 47	0.1926	101.8			8.02	1.54		
40年目	R 48	0.1852	101.8			8.02	1.48		
41年目	R 49	0.1780	101.8			8.02	1.43		
42年目	R 50	0.1712	101.8			8.02	1.37		
43年目	R 51	0.1646	101.8			8.02	1.32		
44年目	R 52	0.1583	101.8			8.02	1.27		
45年目	R 53	0.1522	101.8			8.02	1.22		
46年目	R 54	0.1463	101.8			8.02	1.17		
47年目	R 55	0.1407	101.8			8.02	1.13		
48年目	R 56	0.1353	101.8			8.02	1.08	26.00	3.52
49年目	R 57	0.1301	101.8			8.02	1.04		
合計				502.24	473.13	406.60	164.62	26.00	3.52
単純事業費計				502.24		406.60		26.00	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。







(再評価)

様式-2

## 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道158号	大野油坂道路 (和泉・油坂区間)	L = 15.5km	高規格	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
10,300	2車線	近畿地方整備局

### ① 費用

	事業費	維持管理費	更新費	合計
基準年	令和5年度			
単純合計	1,374億円	259億円		1,632億円
うち残事業分	502億円	259億円		761億円
基準年における 現在価値(C)	1,425億円	103億円		1,528億円
うち残事業分	473億円	103億円		576億円

### ② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和5年度			
供用年	令和8年度			
単年便益 (初年便益)	65億円	6.0億円	1.1億円	73億円
基準年における 現在価値(B)	1,251億円	115億円	21億円	1,387億円
うち残事業分	1,251億円	115億円	21億円	1,387億円

③ 結果

費用便益比（事業全体）	0.9
経済的純現在価値（事業全体）	-141億円
経済的内部収益率（事業全体）	3.5%
費用便益比（残事業）	2.4
経済的純現在価値（残事業）	811億円
経済的内部収益率（残事業）	12.5%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	10,300台/日	±10%	0.8~0.998
事業費	1,374億円	±10%	0.9~0.9
事業期間	14年	±20%	0.9~0.9

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	10,300台/日	±10%	2.2~2.6
事業費	502億円	±10%	2.2~2.6
事業期間	2年	±20%	2.4~2.4

# 交通状況の変化

様式-3①

## 事業名：大野油坂道路（和泉・油坂区間）（事業全体）

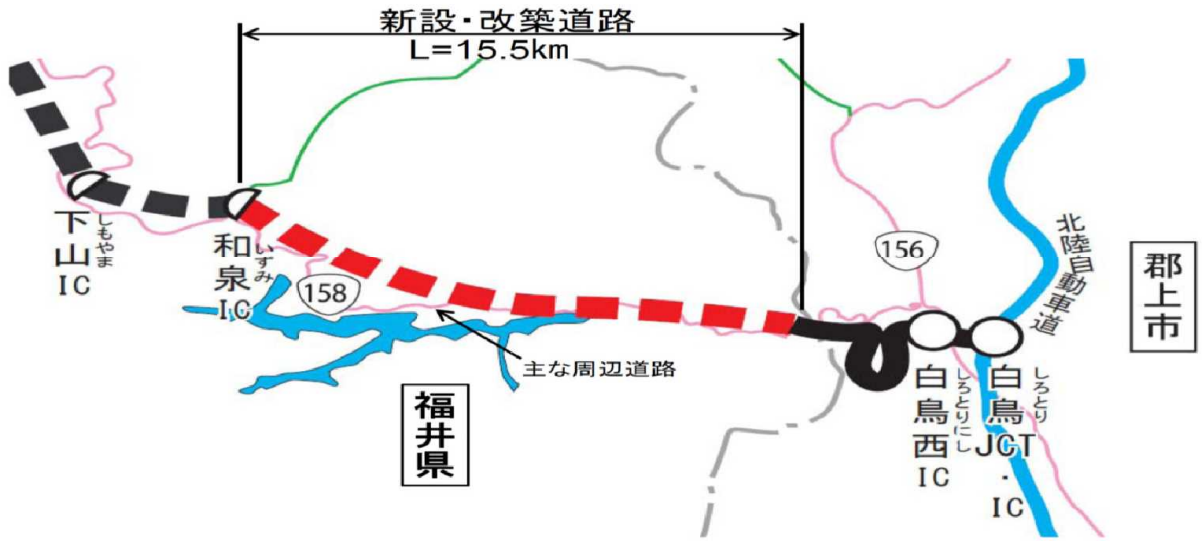
（推計時点 令和22年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 (15.5km)	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	0	10,300	
	走行時間 <sup>※2</sup>	[分]	0	18	
	走行時間費用 <sup>※3</sup>	[億円/年]	0.00	44.80	
②主な周辺道路 <sup>※4</sup>	一般国道158号 (18.8km)	交通量	[台/日]	5,400	100
		走行時間	[分]	42	23
		走行時間費用	[億円/年]	56.48	0.20
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
	③その他道路合計 (30,334.5km)	走行時間費用	[億円/年]	128,339.25	128,285.92

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：30,368.8km	走行時間短縮便益	[億円/年]	128,395.74	128,330.92	64.81

- ※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。
- ※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。
- ※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。
- ※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。
- ※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



## 交通状況の変化

様式-3①

事業名：大野油坂道路（和泉・油坂区間）（残事業）

（推計時点 令和22年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 (15.5km)	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	0	10,300	
	走行時間 <sup>※2</sup>	[分]	0	18	
	走行時間費用 <sup>※3</sup>	[億円/年]	0.00	44.80	
②主な周辺道路 <sup>※4</sup>	一般国道158号 (18.8km)	交通量	[台/日]	5,400	100
		走行時間	[分]	42	23
		走行時間費用	[億円/年]	56.48	0.20
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
		交通量	[台/日]	0	0
		走行時間	[分]	0	0
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	0.00
③その他道路合計 (30,334.5km)	走行時間費用	[億円/年]	128,339.25	128,285.92	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：30,368.8km	走行時間短縮便益	[億円/年]	128,395.74	128,330.92	64.81

※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

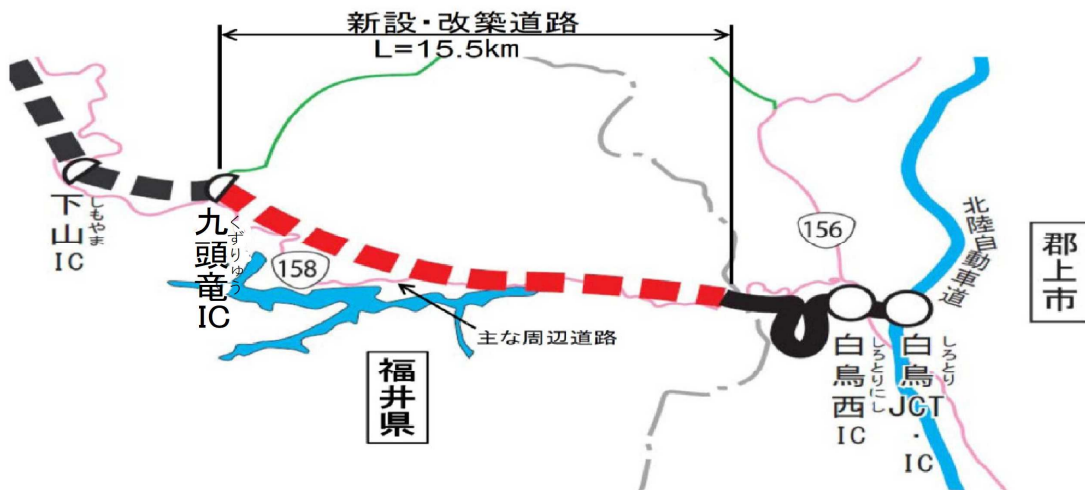
※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること)



# 費用便益分析の条件

事業名：大野油坂道路(和泉・油坂区間)

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	令和5年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計 <input checked="" type="checkbox"/> (令和22年) 複数時点での推計 <input type="checkbox"/>	
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計 <input checked="" type="checkbox"/>	
		整備の有無のいずれかのみ推計 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	いずれかのみ推計の場合 <input type="checkbox"/> 理由を記載		
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H27全国道路・街路交通情勢調査)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他( )	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
		有の場合のみ <input type="checkbox"/> 考慮した開発交通量(トリップ数) ( )台トリップ/日 考慮した理由を記載	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である <input type="checkbox"/>	
		山間部海岸部で併行道路が少ない <input type="checkbox"/>	
その他( )			
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 <input type="checkbox"/> 採用理由を記載		
	最終配分の速度 <input checked="" type="checkbox"/>		
	採用理由を記載 分割回毎の極端な速度差が生じないBPR関数の適用に併せて、最終速度を採用。		
	その他( ) <input type="checkbox"/>		

(3)

項目		チェック欄	
休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
		対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
	採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	( ) %	
災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載	( ) 日
とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載		<input type="checkbox"/>	
冬期交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する	<input type="checkbox"/>	
	考慮する場合のみ	採用した冬期日数 採用した冬期日数の考え方を記載	( ) 日
		冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載	
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他 ( )	<input type="checkbox"/>	
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>	
	独自に設定した値を使用 算出婚子を添付すること	<input type="checkbox"/>	
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>	
	独自に設定した値を使用 算出婚子を添付すること	<input type="checkbox"/>	
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input type="checkbox"/>	
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)	<input type="checkbox"/>	
その他			

便益の算定





## 費用の現在価値算定表(事業全体)

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名:一般国道158号 大野油坂道路(和泉・油坂区間)

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)		更新費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
				0.37	15.5	5.69			
-14年目	H 24	1.5395	96.4	3.18	5.17				
-13年目	H 25	1.4802	96.4	2.34	3.66				
-12年目	H 26	1.4233	98.7	3.70	5.44				
-11年目	H 27	1.3686	100.2	3.33	4.63				
-10年目	H 28	1.3159	100.3	4.64	6.20				
-9年目	H 29	1.2653	100.5	26.93	34.51				
-8年目	H 30	1.2167	100.4	41.70	51.44				
-7年目	R 1	1.1699	101.2	89.58	105.42				
-6年目	R 2	1.1249	101.9	145.65	163.68				
-5年目	R 3	1.0816	101.8	155.93	168.66				
-4年目	R 4	1.0400	101.8	231.36	240.62				
-3年目	R 5	1.0000	101.8	163.09	163.09				
-2年目	R 6	0.9615	101.8	237.27	228.14				
-1年目	R 7	0.9246	101.8	264.96	244.99				
供用開始年次	R 8	0.8890	101.8			5.17	4.60		
1年目	R 9	0.8548	101.8			5.17	4.42		
2年目	R 10	0.8219	101.8			5.17	4.25		
3年目	R 11	0.7903	101.8			5.17	4.09		
4年目	R 12	0.7599	101.8			5.17	3.93		
5年目	R 13	0.7307	101.8			5.17	3.78		
6年目	R 14	0.7026	101.8			5.17	3.63		
7年目	R 15	0.6756	101.8			5.17	3.49		
8年目	R 16	0.6496	101.8			5.17	3.36		
9年目	R 17	0.6246	101.8			5.17	3.23		
10年目	R 18	0.6006	101.8			5.17	3.11		
11年目	R 19	0.5775	101.8			5.17	2.99		
12年目	R 20	0.5553	101.8			5.17	2.87		
13年目	R 21	0.5339	101.8			5.17	2.76		
14年目	R 22	0.5134	101.8			5.17	2.66		
15年目	R 23	0.4936	101.8			5.17	2.55		
16年目	R 24	0.4746	101.8			5.17	2.45		
17年目	R 25	0.4564	101.8			5.17	2.36		
18年目	R 26	0.4388	101.8			5.17	2.27		
19年目	R 27	0.4220	101.8			5.17	2.18		
20年目	R 28	0.4057	101.8			5.17	2.10		
21年目	R 29	0.3901	101.8			5.17	2.02		
22年目	R 30	0.3751	101.8			5.17	1.94		
23年目	R 31	0.3607	101.8			5.17	1.87		
24年目	R 32	0.3468	101.8			5.17	1.79		
25年目	R 33	0.3335	101.8			5.17	1.73		
26年目	R 34	0.3207	101.8			5.17	1.66		
27年目	R 35	0.3083	101.8			5.17	1.59		
28年目	R 36	0.2965	101.8			5.17	1.53		
29年目	R 37	0.2851	101.8			5.17	1.47		
30年目	R 38	0.2741	101.8			5.17	1.42		
31年目	R 39	0.2636	101.8			5.17	1.36		
32年目	R 40	0.2534	101.8			5.17	1.31		
33年目	R 41	0.2437	101.8			5.17	1.26		
34年目	R 42	0.2343	101.8			5.17	1.21		
35年目	R 43	0.2253	101.8			5.17	1.17		
36年目	R 44	0.2166	101.8			5.17	1.12		
37年目	R 45	0.2083	101.8			5.17	1.08		
38年目	R 46	0.2003	101.8			5.17	1.04		
39年目	R 47	0.1926	101.8			5.17	1.00		
40年目	R 48	0.1852	101.8			5.17	0.96		
41年目	R 49	0.1780	101.8			5.17	0.92		
42年目	R 50	0.1712	101.8			5.17	0.89		
43年目	R 51	0.1646	101.8			5.17	0.85		
44年目	R 52	0.1583	101.8			5.17	0.82		
45年目	R 53	0.1522	101.8			5.17	0.79		
46年目	R 54	0.1463	101.8			5.17	0.76		
47年目	R 55	0.1407	101.8			5.17	0.73		
48年目	R 56	0.1353	101.8			5.17	0.70		
49年目	R 57	0.1301	101.8			5.17	0.67		
合計				1371.80	1425.40	258.64	102.74		
単純事業費計				1373.69		258.64			

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

## 費用の現在価値算定表(残事業)

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 一般国道158号 大野油坂道路(和泉・油坂区間)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.37	15.5	5.69

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)		更新費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-2年目	R 6	0.9615	101.8	237.27	228.14				
-1年目	R 7	0.9246	101.8	264.96	244.99				
供用開始年次	R 8	0.8890	101.8			5.17	4.60		
1年目	R 9	0.8548	101.8			5.17	4.42		
2年目	R 10	0.8219	101.8			5.17	4.25		
3年目	R 11	0.7903	101.8			5.17	4.09		
4年目	R 12	0.7599	101.8			5.17	3.93		
5年目	R 13	0.7307	101.8			5.17	3.78		
6年目	R 14	0.7026	101.8			5.17	3.63		
7年目	R 15	0.6756	101.8			5.17	3.49		
8年目	R 16	0.6496	101.8			5.17	3.36		
9年目	R 17	0.6246	101.8			5.17	3.23		
10年目	R 18	0.6006	101.8			5.17	3.11		
11年目	R 19	0.5775	101.8			5.17	2.99		
12年目	R 20	0.5553	101.8			5.17	2.87		
13年目	R 21	0.5339	101.8			5.17	2.76		
14年目	R 22	0.5134	101.8			5.17	2.66		
15年目	R 23	0.4936	101.8			5.17	2.55		
16年目	R 24	0.4746	101.8			5.17	2.45		
17年目	R 25	0.4564	101.8			5.17	2.36		
18年目	R 26	0.4388	101.8			5.17	2.27		
19年目	R 27	0.4220	101.8			5.17	2.18		
20年目	R 28	0.4057	101.8			5.17	2.10		
21年目	R 29	0.3901	101.8			5.17	2.02		
22年目	R 30	0.3751	101.8			5.17	1.94		
23年目	R 31	0.3607	101.8			5.17	1.87		
24年目	R 32	0.3468	101.8			5.17	1.79		
25年目	R 33	0.3335	101.8			5.17	1.73		
26年目	R 34	0.3207	101.8			5.17	1.66		
27年目	R 35	0.3083	101.8			5.17	1.59		
28年目	R 36	0.2965	101.8			5.17	1.53		
29年目	R 37	0.2851	101.8			5.17	1.47		
30年目	R 38	0.2741	101.8			5.17	1.42		
31年目	R 39	0.2636	101.8			5.17	1.36		
32年目	R 40	0.2534	101.8			5.17	1.31		
33年目	R 41	0.2437	101.8			5.17	1.26		
34年目	R 42	0.2343	101.8			5.17	1.21		
35年目	R 43	0.2253	101.8			5.17	1.17		
36年目	R 44	0.2166	101.8			5.17	1.12		
37年目	R 45	0.2083	101.8			5.17	1.08		
38年目	R 46	0.2003	101.8			5.17	1.04		
39年目	R 47	0.1926	101.8			5.17	1.00		
40年目	R 48	0.1852	101.8			5.17	0.96		
41年目	R 49	0.1780	101.8			5.17	0.92		
42年目	R 50	0.1712	101.8			5.17	0.89		
43年目	R 51	0.1646	101.8			5.17	0.85		
44年目	R 52	0.1583	101.8			5.17	0.82		
45年目	R 53	0.1522	101.8			5.17	0.79		
46年目	R 54	0.1463	101.8			5.17	0.76		
47年目	R 55	0.1407	101.8			5.17	0.73		
48年目	R 56	0.1353	101.8			5.17	0.70		
49年目	R 57	0.1301	101.8	0.00	0.00	5.17	0.67		
合計				502.24	473.13	258.64	102.74		
単純事業費計				502.24		258.64			

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。



